



# 国際酪農連盟日本国内委員会

Japanese National Committee of International Dairy Federation



IDF ホームページ / <http://www.fil-idf.org/> / ファクトシートより

IDF Factsheet 006/2017-10

IDF ファクトシート 2017年10月

## IDF カントリーレポート

17か国から参集した酪農政策・経済常設委員会委員およびマーケティング常設委員会委員は、2017年10月を遡る6か月間の報告書を提出した。このファクトシートは各国のカントリーレポートの主要な点をピーター・ドーソン Peter Dawson (英国) がまとめたものである。2017年10月28日にベルファストで開催された酪農政策・経済常設委員会とマーケティング常設委員会の合同会議にプレゼンテーションされた。

### 【生乳生産】

EU諸国から届いた最新の生産情報によると、生乳生産者は乳価の上昇に応じて、増産傾向をしめした。リン酸減少プログラムの影響を受けたオランダでさえ、牛群の再編によって増産となった。

EU域外では、北米、ニュージーランド、南アフリカおよびイスラエルで増加した。日本と豪州では減産となった。

### 【農家軒先乳価】

農家軒先乳価は世界的には強い上昇をしめし、ドイツ、オランダおよびアイルランドで30%を超える価格が報告された。例外はフィンランドと豪州での低下であった。特に豪州では大手バイヤーの苦境に起因している。

### 【卸乳価と小売り乳価】

高止まりを続けたバター価格の調整が始まった。たんぱく質価格は、主にEUの在庫過剰により抑えられている。

### 【消費トレンド】

データ提供国から得られた消費性向について、飲用乳とヨーグルトは概して減少、バターは概して増加となった。多くの国で持続可能性とアニマルウェルフェアの問題が消費者の関心を誘った。南アフリカとカナダでは天然系の脂肪に消費者の好みが増した。欧州では多数の国でアンチデーリー活動、特にヴィーガンによるロビー活動や乳代替え物からの競合が増加している。

### 【貿易】

米国では生乳生産増の結果として輸出が増えている。

英国のEU離脱交渉を受けて貿易政策の状況は複雑化している。米国はNAFTAの改定を模索し、EUとニュージーランドは二国間取引や多国間取引を追求している。



# 国際酪農連盟日本国内委員会

Japanese National Committee of International Dairy Federation



IDF ホームページ / <http://www.fil-idf.org/> / ファクトシートより

スイスの農家団体による提案や政府の調整をうけて、食糧保障と主権政策が投票で採用された。

## 【環境】

環境関連の活動や取り組みが13か国からの報告に見られた。環境問題が酪農乳業界にとって相変わらず重要な問題であることを意味する。米国の保証計画FARMに新しい環境管理責任プラットフォームが追加された。ニュージーランドでは気候変動と排出に取り組む業界の枠組みとなる「酪農アクション」が立ち上がった。

オランダではリン酸削減計画の影響度は軽微であった。同国で生乳生産は限界に近づいたが、農場の効率性と投資により、さらなる控えめな増加は不可能ではない。

## 【栄養】

カナダ政府はヘルシーな食事戦略を全国展開している。ノルウェーでは国立諮問公社が持続可能な栄養ガイドラインを公表した。脂肪に関して、科学的な議論を酪農乳業界が先導している国がある。フランスでは国定推奨栄養を見直している。「栄養スコア」という栄養表示が施行されつつあり、乳製品が議論の対象となる可能性がある。

## 【アニマルウェルフェア】

欧州では多数の国でアニマルウェルフェアがマスコミの強い関心と呼んだ。

## 【団体マーケティング】

団体マーケティングに関する報告が11か国から寄せられた。「栄養」と「健康」に関連するテーマやメッセージが業界で普通に用いられている。続いて、多い順に食事（時間、夕食、休息をとる）、楽しみ（味、お祝い）、文化（地方の遺産、伝統、工芸）、スポーツ（回復）、起源、持続可能性、食糧保障、エネルギーと並んだ。

## 【まとめ】

最近見られた価格調整が単に季節的なものか、循環的な下振れの前兆かは不確かである。乳脂の需要が消費者に増えているが、消費者は持続可能性とアニマルウェルフェアへの関心も高めている。ヴィーガンロビーや乳代替え物からのチャレンジも増えている。業界団体によるマーケティング活動においては、健康と栄養のメッセージ作りが目立ってきた。

翻訳：JIDF事務局

编者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。